

## 顕微鏡歯科学会 学術大会はプレカンから参加のススメ ～第20回学術大会 後記～

安岡大介

ミライノデンタルクリニック 兵庫県加東市

顕微鏡歯科学会 学術大会の参加は2018年の衝撃の発表以来、6年ぶり2回目だ。

初参加の時から、顕微鏡歯科学会はプレカンから始まっている！是非、参加を！と言われていた。なんだそりゃ？と思いつつ、今年は認定医試験 受験予定だったので気合い入れてプレカン参加予定で木曜日から休診にした。

プレカンに参加しての正直な感想はマニアックすぎる、日本にいる同じ歯科医師としてどういう道筋辿たらここに辿り着くんだろう、、、  
ただでさえ顕微鏡歯科学会に所属されている先生は各ジャンルに秀でておられる先生が多いのに、更に上回っていた。

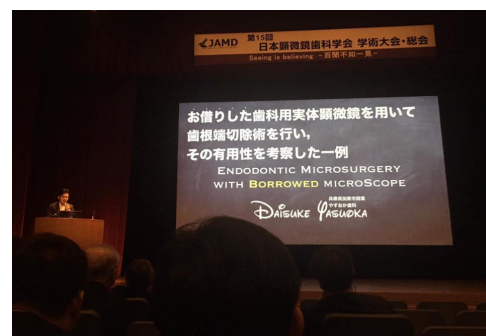


図 初参加にして初発表  
お借りしたマイクロスコープでの口演発表

---

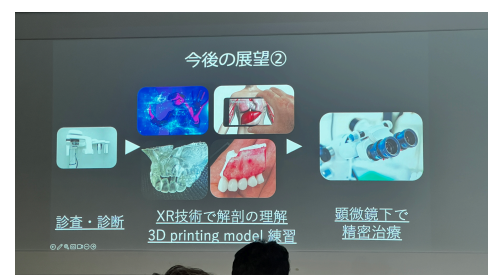
春日太一先生

マイクロスコープにXR技術と3Dprinting modelを併用した症例と今後の展望

VRとは仮想現実のことで、いわゆるアバター空間のこと  
ARとは拡張現実のことで、いわゆるポケモンGO  
これらをまとめてXR[技術]という。

歯内療法の領域では、CBCTだけでは想像が難しい症例に対して立体的に視覚化され、擬似体験できた。XRで3次元的に理解することでCBCTと比べて、アーチファクトがなくカラーリングで直感的に理解できた。  
またインプラントの領域では、サイナスリフトのような難易度の高いに対して上顎洞粘膜まで再現した3D printing modelが作製できるようだ。

これらにより、術者にとって事前に指導医に相談できたり、反復練習したり、スタッフと事前共有することで手術時間が短縮できるようになる。  
そんなにお高くない技工料だったので、患者説明での安心感だけでなく、勤務医を雇っている医院さんにとって



も育成にも使えそうだと感じた。

---

お二人目の井上卓之先生

顕微鏡歯科治療に必要なマイクロの画像撮影機材と周辺機器、録画システムの解説

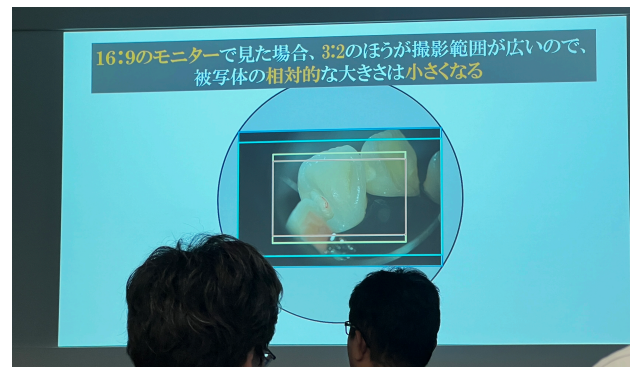
矯正専門医にも関わらず？ マイクロスコープを診療に用いられており、自分の知っている限りPC、撮影機材関係で最もマニアックな先生だと思っている。

マイクロスコープは見るだけでなく、見せることができる機材のため、覗く課題がクリアすると記録ツールが課題となってくる。

マイクロに直結しているカメラや、ビデオカメラだと取り出すのが面倒になってくるし、メーカーから販売されている製品になってくると使い勝手はいいが高価になってくる。

1台くらいなら許容範囲だが複数台マイクロスコープを導入することになるとそれも障壁になってくる。

井上先生はその先をいっておられた。記録はyoutuberがゲーム配信にも使うビデオキャプチャで、自分で設定することで安価に環境構築されていたが、動画の長期保管を見越して、HDDやSSDや、クラウド保存ではなく磁気テープストレージを使っているとのこと。とりあえず我々が明日からできること、として「カメラの設定は16:9ではなく3:2がおすすめ」とのことだった。



---

顕微鏡歯科学会に参加されるなら  
土曜日診療して日曜日だけ参加〜、みたいな生  
温いこと言わず、他の月にガッツリ働いていた  
だいてガッツリ休んで是非プレカンからの参加  
をオススメする！  
それだけの十分な価値はあるだろう、  
知らんけど。

